

書道の授業では何を学ぶのか

授業では表現（書道実技）と鑑賞（書道史・書論・鑑賞）を主体とし、書の世界をさまざまな視点から深く学び、自らの感性や情操を磨き、自分らしい書を制作することを目標とします。

<授業紹介>

書道実習Ⅹ（漢字かな交じり2）

授業では、俳句や詩をもとにして大字をメインとした作品の創作を行っています。字書を引いて文字を調べ、文字数や配置など、自分で構成を考えています。さまざまな表現方法を学び、みんなで鑑賞しながら、個性豊かな作品を制作しています。

碓井瑞生（長野県野沢南高等学校出身）

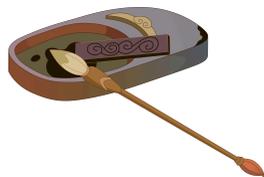


実技授業風景

主な進路先

一般企業のほかに、大学院（筑波大学大学院など）、中学校教員（国語）、高等学校教員（国語、書道）となって活躍しています。

また、卒業後も、全国規模の公募展に出品し、書家として活動している先輩もいます。



取得できる資格

中学校教諭（国語）

高等学校教諭（書道・国語）

相模女子大学 学芸学部 日本語日本文学科

神奈川県相模原市南区文京2-1-1

042-742-1411（代表）

<https://sagami-nichibun.jp>



2025年度
ニチブン
学科の学びシリーズ



書道



観峰館での拓本実習

書道のカリキュラム

書道実習（実技）や書道の理論・教育法の授業が他大学よりも充実しており、書道の初心者でも安心して、段階的に学べるカリキュラムを用意しています。

書道ゼミナールでは年に4回ある書道研修を実施しています。関東、関西、台湾など国内外の書道関連施設で、拓本実習を実施し、書道作品を鑑賞しました。また、近隣県で1泊2日の合宿を行い、実技の能力を高め、ゼミ生同士の親睦を深めています。そして、意欲のある学生は、課外活動として全国規模の公募展にも積極的に出品しています。



第49回卒業制作展

書道教員になるために

書道の教員採用試験では、どの都道府県でも高校の国語の免許がないと受験資格がありませんので、高校国語の免許も並行履修します。また、全国的に書道教員の採用がほとんどない状況ですので、高校の国語の先生として採用されてから、書道を受け持つこととなります（非常勤講師の場合、書道だけ受け持つことが可能です）。

◆ 1・2年生

漢字の書（楷書・行書・草書・隸書・篆書・篆刻）やかなの書といった実技面、書道史、書論、鑑賞といった理論面を1年生から段階的に学びます。

最終的には、各書体が臨書でき、条幅に書ける水準にまで到達します。授業だけで物足りない学生は、書道部に参加し、技術面をさらに磨き、各種展覧会に出品しています。

◆ 3・4年生

1、2年生での臨書力をもとに、漢字仮名交じりの書（創作）を中心に実践します。神奈川県の高등학교では大作の指導も行われているため、本学でも大きな筆を用い、大作の創作を基礎から学びます。そして、卒業制作展などの展覧会で4年間の学びを結実させます。

書道科教育法の授業

高校での書道の授業を実際に体験するところから始めますので、高校で書道の授業を受けたことがない方でも心配いりません。

春学期は学習指導領を理解した上で、実際に指導案の作成方法を学び、自分1人でも指導案が書けるようになるのが目標です。

秋学期は、1人あたり2回模擬授業を行います。1回目は基本的な臨書の授業、2回目は創作の授業を行い、教育実習に行っても困らない水準の授業力を身に付けます。また、ゲストティーチャーとして現場の高校の先生にきてもらい、最新の教育動向についても理解できる工夫をしています。



教育実習の様子

担当教員



下田 章平

准教授